

- 問1 日清戦争のきっかけとなった朝鮮半島での出来事と、その戦争の講和条約直後にロシア・ドイツ・フランスが日本に対して行った要求の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 東学党の乱 / 獲得した遼東半島を清に返還すること | 2. 江華島事件 / イギリスとの同盟を破棄すること | 3. 東学党の乱 / イギリスとの同盟を破棄すること | 4. 江華島事件 / 獲得した遼東半島を清に返還すること |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|
-
- 問2 三国干渉において、ロシア、ドイツ、フランスが日本に対して遼東半島の返還を求めた主な理由として、当時の国際情勢から考えて最も適切な説明はどれですか。 (2024年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1. 日本とイギリスが同盟を結び、東アジアの軍事バランスが崩れることを恐れたため | 2. 下関条約の内容が、それ以前に結ばれていた日露親条約に違反していたため | 3. 日本大陸進出を抑え、自国が中国における権益を拡大する妨げにならないようにするため | 4. 日本が賠償金を取りすぎることで、清の経済が破綻することを防ぐため |
|--|---------------------------------------|---|-------------------------------------|
-
- 問3 日露戦争に従軍した弟の身を案じ、雑誌『明星』において「君死にたまふことなかれ」という詩を発表した、明治から大正期にかけて活躍した女性歌人は誰ですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|-----------|
| 1. 樋口一葉 | 2. 津田梅子 | 3. 与謝野晶子 | 4. 平塚らいてう |
|---------|---------|----------|-----------|
-
- 問4 1894年に始まった日清戦争から、1904年に始まる日露戦争までの約10年間の外交史において、三国干渉に関連して起きた出来事の説明として正しいものはどれですか。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 三国干渉を受けた直後、日本は清の反乱軍である義和団を鎮圧するために大軍を派遣した。 | 2. 三国干渉の結果、日本は賠償金の受け取りをすべて破棄し、国際社会での信用回復に努めた。 | 3. 三国干渉の翌年、日本は下関条約の修正を行い、遼東半島の代わりに台湾を領有した。 | 4. 三国干渉でロシアに屈した日本は、対抗するためにイギリスとの間で日英同盟を結んだ。 |
|--|---|--|---|
-
- 問5 1871年、明治政府は岩倉具視を全権大使とする大規模な使節団を欧米諸国に派遣した。この使節団が派遣された主な目的について述べた文として、正しいものはどれか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 不平等条約を改正するための予備交渉と、欧米の進んだ制度や文化の視察 | 2. 日清戦争の講和条約である下関条約を締結し、領土の割譲を要求するため | 3. ノルマントン号事件の裁判において、イギリス側に損害賠償を請求するため | 4. ロシアとの間に樺太・千島交換条約を締結し、北方の国境を確定させるため |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
-
- 問6 19世紀末の風刺画において、日本と清が朝鮮半島という「獲物の魚」を狙って争っている様子を、橋の上から漁夫の利を得ようと言う「釣り人」に例えられた国があります。当時の国際情勢において、この「釣り人」に象徴される国が行っていた行動として正しいものはどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. ヨーロッパでの紛争に専念するため、アジアの外交問題には中立を維持した | 2. 軍事力を背景に南下政策を推進し、東アジアでの勢力圏を拡大しようとした | 3. アジアの植民地化を阻止するため、日本や清に対して軍事支援を行った | 4. 太平洋での新たな貿易ルートを確保するため、フィリピンの領有を宣言した |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
-
- 問7 大日本帝国憲法下の帝国議会は、衆議院と貴族院の二院制をとっていました。この二つの議院の関係や仕組みについて説明した文として、正しいものを次の中から選んでください。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 衆議院は公選（選挙）によって選ばれた議員で構成されたが、貴族院は皇族や華族、天皇に任命された議員などで構成されていた。 | 2. 衆議院には予算先議権が認められておらず、すべての法案や予算案は必ず貴族院から先に審議を始める必要があった。 | 3. 衆議院で可決された法案が貴族院で否決された場合、衆議院で3分の2以上の賛成があれば、貴族院の議決を無効にできた。 | 4. 衆議院と貴族院はどちらも、満25歳以上のすべての男女による普通選挙によって選出された議員で構成されていた。 |
|--|--|---|--|
-
- 問8 江戸時代後半には、複数の人間が異なる工程を分担して作業を行う「分業」による工場制手工業（マニュファクチュア）が普及しました。明治時代になり、富岡製糸場などの官営模範工場において、この生産体制はどのように進化しましたか。その特徴を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 機械の使用を禁止し、熟練した職人が一人で全工程を完結させる体制を強化した。 | 2. 農家が自宅で手作業により製品を生産する、江戸時代以前の家内制手工業へと回帰した。 | 3. 西洋の技術や大型の機械を導入し、分業体制と組み合わせることで生産性を向上させた。 | 4. 動力として水車のみを使い、伝統的な手工具による小規模な生産を継続した。 |
|--|---|---|--|
-
- 問9 明治時代における立憲体制の確立と、その後の近代化の過程について説明した次の記述のうち、出来事の順序として正しいものはどれか。なお、記述は「民撰議院設立建白書の提出」「第1回帝国議会の開会」「日清戦争の勃発」「治安維持法の制定」の4点について述べています。 (2020年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 日清戦争が勃発した後に第1回帝国議会の開かれ、民撰議院設立建白書の提出、治安維持法の制定と続いた。 | 2. 民撰議院設立建白書の提出、日清戦争の勃発、第1回帝国議会の開会、治安維持法の制定の順に進んだ。 | 3. 民撰議院設立建白書が提出された後、第1回帝国議会が開かれ、その後に日清戦争が始まり、さらに後の時代に治安維持法が制定された。 | 4. 第1回帝国議会が開かれた後に民撰議院設立建白書が提出され、日清戦争を経て、治安維持法が制定された。 |
|--|--|---|--|
-
- 問10 1905年にアメリカの仲介によって日本とロシアの間で結ばれた講和条約と、その条約の内容に対する日本国内の反応について述べたものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. ポーツマス条約が結ばれ、多額の賠償金を得たことで、国内では工業化をさらに進めるための重化学工業への投資が活発になった。 | 2. サンフランシスコ平和条約が結ばれ、日本の主権は回復したが、同時に日米安全保障条約が締結されたことに反対する運動が激化した。 | 3. 下関条約が結ばれたが、ロシア・ドイツ・フランスによる三国干渉を受け、遼東半島を返還することになった。 | 4. ポーツマス条約が結ばれたが、賠償金が得られなかったため、日比谷焼き打ち事件などの暴動が起こった。 |
|--|--|---|---|
-
- 問11 日清戦争後の外交関係において、「三国干渉」が日本に与えた影響やその内容を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 下関条約によって日本が清から得た権利のうち、遼東半島の領有をあきらめ清へ返還するよう求める外交圧力であった。 | 2. 日本が清から得た台湾の領有を認めない代わりに、ロシアが日本に対して多額の借款を与えるという提案であった。 | 3. ポーツマス条約の締結を阻止し、日本が清から多額の賠償金を得ることを妨害するための軍事介入であった。 | 4. 日英同盟の成立を恐れたロシア・ドイツ・フランスが、日本に対して清との和平交渉をやり直すよう求めた通告であった。 |
|---|---|--|--|